



高槻 まちかど遺産 H25-12

西富田集落と水路



富田南西部は、かつて西富田（西垣内を含む）という集落でした。「太閤検地」の検地帳に「政所」という屋号がみられることなどから、平安～室町時代の荘園「富田荘」に遡る、富田の中で最も古い集落と考えられます。



江戸前期の富田 『高槻市史』より

集落の西辺を南行する水路は、台地の裾に沿って東に曲がり、西富田を西から南にかけて囲むように流れています。政所の南側は水路幅が広く「堀」と呼ばれました。

平成 26 年 3 月 高槻市教育委員会

西富田集落と水路

富田南西部は、かつて西富田（西垣内（にしのかいち）を含む）という集落でした。「太閤検地（たいこうけんち）」の検地帳に「政所（まんどころ）」という屋号がみられることなどから、平安～室町時代の荘園「富田荘（とんだのしょう）」に遡る、富田の中で最も古い集落と考えられます。

集落の西辺を南行する水路は、台地の裾に沿って東に曲がり、西富田を西から南にかけて囲むように流れています。政所の南側は水路幅が広く「堀」と呼ばれました。

平成 26 年 3 月 高槻市教育委員会

※01 政所屋号の家は、大昔、北陸の殿さんが、富田に流れてこられ、政所(まんどころ)となったと、先祖から聞いている。

※02 能勢の倉垣村の倉垣源氏の一族が富田に来た。

※03 昔、西富田（西垣内も元は西富田地内でした）は、濠と崖で囲まれた集落でした。北と南は 10m の「おほり」で、西側は新池からの水が流れ、東は崖で囲まれていました。現在は南側にその濠の一部が残されている。

